

みなさんおはようございます。早いもので1学期が終わります。進級また入学して以来、勉強はもちろんのこと、学習や躰高祭などの行事、部活動といろいろなことを経験し、頑張ったことと思います。夏休みは比較的時間の自由になる時期です。これを機会に普段はできないことに挑戦してほしいと思います。

さて、何かに挑戦するときの心構えについて話をしたいのですが、

ちょっとその前に「校長先生のイラスト」でネット検索してみたらどうなると思いますか。まあ背広を着た年配男性のイラストばかり出てきて、たいてい眼鏡をかけているのですね。これは、AIの作成する、回答などもそうですが、過去のデータが反映されています。確かにまだ日本においては女性の校長の割合は低くて、2023年の全国規模のデータですが小学校で26.8%、これが中学校は11.0%、高校は10.4%となります。

だから、イラストやAIは正しいかどうかではなく、現状を反映して、いわば過去の偏った状況から回答を作成するので、年配男性のイラスト偏りがちなのです。

これは「アンコンシャスバイアス」と言って、聞きなれない言葉かもしれませんが、日本語では、「無意識の思い込み」「無意識の偏見」などとも表現されています。

アンコンシャスバイアスは、社会にあふれていて、たとえば、「血液型や星占いの星座をきいて、相手の性格を想像する」などもそうです。

アンコンシャスバイアスは、相手に対するものだけでなく、「自分自身に対するもの」もあります。気づかないと、生き方や進路選択、キャリア形成に大きな影響が及びます。「どうせ、きっと、ムリだ」「自分なんて…」「普通は、こうだから…」などという言葉で、いろいろなことを判断していませんか。こういう言葉が浮かんだら「これってアンコンシャスバイアスかも」と思い出してください。

アンコンシャスバイアスに気づくことで、ものの見方やとらえ方が変わったり、他の可能性を考えてみようと思えたり、一歩踏み出してみようという勇気もてたり、意識の変化が世界を広げることにつながります。何かに挑戦するときの心構えとして、このアンコンシャスバイアスを意識してほしいのです。

今月11日に1年全員が学習強化日として京都大学に行き、京都大学の先生から講義を受けて、その後理系を中心に研究室を訪問するという機会がありました。2年生は昨年いったことを覚えていると思います。

今回の京大訪問で、文系の方は四條躰高校の77期と74期の先輩から話を聞く機会がありました。この二人の本校卒業生、ともに総合型入試で合格していて、どちらも女性だったのですが、興味深い話をしてくれました。

最初は二人とも京都大学が志望校ではなくて、一人は神戸大学が志望校だったそうです。ただ、将来のやりたいことを考えるうちに、それが可能になるのは京都大学だと思い、京大志望になったそうです。そして、大学受験の当時躰高に京大志望の女子が少なかったことを残念に思うとも言っていました。

皆さんは四條躰高校の生徒として、自分の可能性をもっと信じてもいいのではありませ

んか。本校のこれまで大学合格実績と自分の成績を勝手に比べて、「この学科は無理」「自分の今の成績でこの大学は無理」とか、思い込んでいませんか。

本当にそういう大学や学科に行きたいのなら、努力すれば、ぶれずにずっと努力し続ければ届くと思いますよ。

なぜなら、皆さんは、ただただ勉強だけをしてきたのではなく、部活も行事もいろいろなことを経験して、限りのある時間を工夫して勉強するスタイルを続けてきたからです。本気で取りくめば、希望は実現する、そういう可能性はあるはずですよ。

3年生の皆さんはまさに進路選択という重要な局面を、また1年生2年生の皆さんは科目選択など、何らかを決定しなければならない時期を迎えていることと思います。

今、妥協することなく、志望は高く、希望をもって努力してください。

高校時代の妥協はこれからの人生に影響を及ぼします。

もちろん、努力しても、必ずすべて、成功するとは限りません。ただ、妥協せずに頑張ったならば、逃げずに向き合ったならば、結果がどうであれ、その後に生きていく上での自信になります。努力したことは人生の経験値を上げることになります。

ぜひ、アンコンシャスバイアスや先入観、狭い世間の常識などに流されることなく、自分でよく考えて、妥協することなく、選択や決定をしてほしいと思います。

では皆さん、体調には十分気を付けて、それぞれの目標に向けて充実した夏休みを送ってください。以上で私からのことばとします。